

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅱ》</p> <p>【熊本県】</p> <p>ア 設置の需要に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村教育委員会における入学に関する問合せ及び就学希望状況の調査</li> <li>・義務教育未修了のまま学齢を超過した方々の学習機会の調査</li> </ul> <p>イ 入学要件に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町村在住の者を受け入れるにあたっての必要経費や事務負担等の分担の在り方に関する研究</li> </ul> <p>ウ 教員の配置や研修、教材その他学校運営に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間学級の学校運営の実際について（教員配置、勤務形態、施設整備等）</li> </ul>
調査研究のねらい	<p>当県においては、平成27年度の調査研究により、中学校夜間学級の学校運営の実際や都道府県教育委員会の施策等が明らかになった。また設置の需要については、本県の義務教育未修了の学齢超過者（H22国勢調査）、外国人住民（H27住民基本台帳人口）等についてまとめることができた。その一方で、その就学希望等は把握できなかった。</p> <p>そこで、市町村教育委員会との連携のもと、中学校夜間学級に関する問合せ及び就学希望状況など設置の需要に関する調査を実施する。次に、設置市町村が他市町村在住の者を受け入れるにあたっての必要経費や事務負担等の分担の在り方等について調査研究を行う。更に、教員の配置や研修、教材その他学校運営に関する調査研究を行う。以上を踏まえて、検討会議で中学校夜間学級の設置の必要性について検討し、本県における中学校夜間学級の設置の方向性を明らかにしていく。</p>
調査研究の成果	<p>○ 「中学校夜間学級に関する実態調査」の実施</p> <p>中学校夜間学級に関する実態について、平成28年10月1日現在の状況を、市町村教育委員会に対して実施した。その結果、市町村や学校に対して入学等に関する問合せはなかった。議会での質問や請願は調査の時点ではなかったが、その後熊本市から12月議会で質問があったとの情報提供があった。設置</p>

に関する検討状況としては、国の動向を踏まえて検討と回答したのは、1市であった。

○ 先進地視察の実施

中学校夜間学級を設置することとした場合に、準備すべきことが明らかになった。

設置に当たっては、設置市町村だけでなく、全ての市町村と夜間学級の設置の趣旨について共通理解を図り、受け入れの方法や予算等に関して明確な取り交わしを行う必要がある。

学校運営に当たっては、基本方針を明確にし、市町村教育委員会、教職員、入学希望者のみならず、地域の方々とも十分な共通理解を図る必要がある。また生徒への対応は、先進地の情報を基に、様々な事態を想定したものを作成しておく必要がある。

教員の配置は、昼間部と夜間部をあわせて算定し配置していた。そのため、昼間部と夜間部の職員の配置は校長が行う。研修については、文科省の事業を活用して実施していた。

・視察先

- ①奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、奈良市立春日中学校
- ②葛飾区教育委員会、葛飾区立双葉中学校

○ 熊本県中学校夜間学級調査研究検討会議の実施

本年度の検討委員は、本庁関係各課に、市町村教育委員会の代表として熊本市教育委員会から2名、各管内の代表として教育事務所指導課長会会長を検討委員に加えた。

【第1回】

中学校夜間学級についての理解を深めるとともに、設置ニーズの把握と先進地視察について協議を行った。

- ・行政説明及び先進地視察の報告
- ・講話 京都教育大学教育支援センター 岡田敏之教授  
(前洛友中学校校長)

・協議及び意見交換

熊本県における中学校夜間学級のニーズの把握について  
調査方法の内容や調査方法について  
先進地視察について

【第2回】

事務局説明と第1回検討会議後の意見を踏まえて、中学校夜間学級の設置と来年度以降の検討会議のあり方について協

議を行った。検討会議の委員には、福祉部局も加え、連携して取り組んでいく。来年度の実態調査は、国の調査を参考にして、より丁寧なニーズの把握を行い、設置形態等についても検討していく。

- ・事務局説明

本年度の調査研究について、国の動向について

- ・協議及び意見交換

来年度以降の検討会議の在り方について